

Title	研究室の窓
Author(s)	
Citation	演劇学論叢. 2024, 23, p. 66-73
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/94771
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

研究室の窓

(令和5年1月～令和5年12月)

□永田靖教授が退任

本研究室の永田靖教授が令和5年3月末日をもって定年をむかえられ、教授を退任された。永田教授はロシア演劇や現代アジアのインターカルチュラルリズム演劇が専門で、平成八年に本研究室助教として着任され、平成十六年に同教授に昇任された。その後は文学研究科長、副学長、適塾センター長、総長参与、21世紀懐徳堂学主、社会学共創本部長、総合学術博物館長を歴任され、研究のみならず、大学運営に多大な貢献をされた。また、日本演劇学会会長、国際演劇学会理事、大学博物館協議会会長、兵庫県立尼崎青少年創造劇場ピッコロ劇団企画運営委員会委員長、公益財団法人吹田市文化振興事業団メイシアター理事など、学外においても研究・文化活動に尽力された。令和5年3月19日に催された退職記念行事「演劇研究の未来」内にて「大舞台はいかに劇場となりうるか」の題で講演された。先生の在任中のご指導に、この場を借りて改めて感謝を申し上げます。退任

後は、令和5年4月より、大阪大学中之島芸術センター特任教授に就任され、演劇学研究室兼任教員としてかわらぬ指導をいただいている。

□国際会議を開催

令和4年2月4日～5日、国立韓国芸術総合学校演劇院と上海戯劇學院と台北藝術大学と共催で第十一回目となる国際演劇学会議 *The 11th International Asian Theatre Studies Conference: Returning to the Theatre: Renew and Prospects* を開催した。本年度は上海戯劇學院の主催で二〇一九年以来、四年ぶりに対面で行われた。永田靖教授が司会を行い、本研究室からは院生の瀧尻浩士、新井静、メンデス・ピント・フェリペの計三名が発表をした。そのほか、韓国、台湾、上海合わせて二十名の研究者、大学院生が発表を行った。今回のシンポジウムでは、本研究室の瀧尻浩士の「The Relationship Between Characters and Place in Barefoot in the Park: Creating a New "Home" for Comedy」が優秀論文賞に選ばれた。

□金潤貞氏に学位

令和5年3月、金潤貞氏に、大阪大学から博士(文学)が授与された。学位申請論

文の題目は「太田省吾の初期作品研究―沈黙劇の発端と展開をめぐる―」で、四〇〇字換算で二六九枚ほど。同論文の審査には、永田靖教授(主査) 渡辺浩司教授(副査) 中尾薫准教授(副査) 古後奈緒子准教授(副査) があたった。

□ピッコロシアター劇場制作演習

令和5年10月4日～7日、演劇学演習の一環として、尼崎ピッコロシアターにおける制作研修を行った。参加者は学部二年の星美鈴、博士前期一年の朝原広基、その他他部局三名の計五名。令和5年度兵庫県立ピッコロ劇団七七回公演「スターマン」(岩松了作、演出)の公演中の四日間の制作実務に携わった。

□令和5年度観劇実習

10月1日 兵庫県立ピッコロ劇団「スターマン」(ピッコロシアター大ホール)
10月22日 「令和5年度 忠三郎狂言会」(大槻能楽堂)
11月5日 太陽劇団「金夢島 L'ILE DO Kanemu-Jima」(ロームシアター京都メインホール)
11月23日 「11月文楽公演」(国立文楽劇

場)

12月24日 ミクニヤナイハラプロジェクト

「船を待つ」(扇町ミュージアム キューブCUBE03)

□近現代演劇研究会例会

日本演劇学会文分科会近現代演劇研究会例会を以下のように開催した。詳細は以下の通り。

令和五年度

八月合同例会

八月二十六日(土)午後二時

会場・大阪大学中之島芸術センター

4階セミナー室

新井静(大阪大学大学院)

唐十郎「特権的肉体」論―「特権的肉体論」の研究受容と再解釈

横堀応彦(跡見学園女子大学)

未来の市立劇場を志向する…ミ

ロ・ラウとNTヘント劇場

十二月合同例会

十二月二十三日(土)午後二時

会場・大阪大学中之島芸術センター

3階スタジオ

金潤貞(早稲田大学演劇博物館)

日韓演劇交流史記述のための問い

かけー1980年代から2000年代を中心に

永田靖(大阪大学中之島芸術センター) ヤスキチ・ムラカミから金森マユへー展覧会と上演についてのミュージアム・レクチャー

田尻陽一(関西外国語大学名誉教授) 講演「スペイン演劇に携わって50年」

□研究室関係者の活動(※は口頭発表)

永田靖(特任教授)

『徴しの上を鳥が飛ぶ』編著、大阪大学総合芸術博物館叢書、大阪大学出版会、2023年3月、p.96

※「現代大阪演劇―震災、コロナ禍、越境」西洋戯劇・課堂学術演講訊息、国立台北藝術大学、2023年3月9日

※「大学はいかに劇場たうるか」基調講演、退職記念シンポジウム「演劇と大学」大阪大学会館講堂、2023年3月19日

※ Myth, Mythmaking & Performance, Opening session, Asian Theatre Working Group, IFTR Annual Conference, Accra, Ghana 2023.

July 25, University of Ghana

「中之島芸術センター始まる―その経緯と展望」『Arts&Media』Vol.13, 大阪大学人文学研究科アート・メディア論コース、2023年8月、pp.220-224

※「金森マユからヤスキチ・ムラカミへ」中之島に馳を放つサマースクール大阪大学中之島芸術センター3階スタジオ、2023年8月17日

日

※永田靖、金森マユ「ヤスキチ・ムラカミとオーストラリアの日系移民史と現代」セミナー、大阪大学中之島芸術センター3階スタジオ、2023年11月23日

「われわれはアフリカからどこへ行くのか」『KSK IMAJU』2023冬Vol.87, 関西障害者定期刊行物協会、2023年12月、pp.30-34

中尾薫(准教授)

「芸能史の書棚」野村伸一・竹内光浩・保立道久編『能楽の源流を東アジアに問う―多田富雄「望恨歌」から世阿弥以前へ―』『藝能史研究』240号、2023年1月

「日本統治下台湾における新演劇興行の

実態―明治三十八年台南座蜻蛉会

の芝居番付より―」『大阪大学大

学院文学研究科紀要』63号、20

23年2月

※「寺子屋にみる教養としての謡文化」

民俗芸術学会、第一六七回研究例

会シンポジウム「教化・教養・教

育―芸術の効能を考える」大阪

大学、2023年2月11日

※国際研究集会「(紀行) 研究の新展開」

総合討論「(紀行) 研究の可能性」

(コメントーター、2023年2

月22日、オンライン)

(共編著) 乙女文楽研究会編『大阪大学

総合博物館叢書19 乙女文楽―開

花から現在まで―近代大阪に生ま

れた女性一人遣いの人形浄瑠璃』

大阪大学出版会、2023年3月

※「榎並猿楽の能」榎並猿楽講座、城東

区民センター、2023年3月6

日

「日本のデジタル文学地図―名所・旧跡

を軸に古典文学を逍遙する―」上

方文藝研究』20号、2023年6

月

「能における大阪の道行文」『融』三〇号、

一般財団法人大阪地域進行調査会

発行、2023年7月

※On the dramaturgy of Noh: focusing on

Meisho and the description of

Michiyuki (Panel title: The

evocative power of "famous places"

in pre-modern Japanese literature

(2023 Conference, European

Association for Japanese Studies,

ベルギー、ゲント大学、オンライ

ン参加、2023年8月19日

(共編著) 中谷伸生・木本文平・橋本善

八編集『生誕130年 没後60年

を超えて 須田国太郎の芸術―三

つのまなざし』公益財団法人きよ

うと視覚文化振興財団発行、執筆

担当「47大原御幸、D-2大原御

幸D-3小原御幸(大原御幸)」

解説(pp.122-125)「須田国太郎が

脇正面からみた能―武智鉄二の断

絃会、及び同人誌『観照』を中心

に―」(pp.134-135)、「リアルを志

向するデッサン」(pp.136-141)、

2023年10月27日

「観世元章相伝作物図二十三―邯鄲 花

筐 大原御幸 国栖 葦」『観世』

90(6)、2023年11月

※「能を旅する―名所・旧跡を詠んだ名

歌・名句を味わう―」(二〇二三

年度懷徳堂古典講座Dコース(全

8回)、大阪市立総合生涯学習セ

ンター、2023年4月16日、5

月21日、6月18日、7月16日、9

月17日、10月15日、11月19日、12

月17日

杉本亘(大学院博士後期課程/コースアシ

スタント)

「笑い通じて、平和の尊さ伝える」『笑う

門には福来・る祭「明治座でどう

な・る家康』』『大阪日日新聞2

023年2月7日

※「幕末・明治初期の遣外使節と饗応演

劇」2023年度日本演劇学会全

国大会、近畿大学東大阪キャンパ

ス、2023年5月25日

「能の中の逢坂」『文論―日本文学研究

ジャーナル』第9号 ハイデルベ

ルク大学、2022年12月(第22

号遺漏分)

馮縁(大学院博士後期課程)

「宝塚少女歌劇における中国戯曲の翻案

―歌劇『琵琶記』を中心に―」『待

春』2023年11月

兼山論叢」第56号、大阪大学文学部、2023年1月、pp.49-71（査読無）。

〔日本寶塚少女歌劇團對於南曲《琵琶記》

瀧尻浩士（大学院博士後期課程）

〔剛の真風と柔の芹香、奇跡のパディ〕

『宝塚イズム46』、青弓社、2023年1月

〔特選―宝塚発日帰りツアー―SWORD地区

とイタリヤを巡る旅『HIGH&LOW-

THE PREQUEL』[Capriccioso]]

『宝塚イズム46』、青弓社、2023

年1月

〔昨日に向かって撃て！ 令和日本の

『サンシャイン・ボーイズ』加藤

健一事務所公演 vol.107』[ACT]

33号、国際演劇評論家協会（AICT）

日本センター関西支部、2023年1月

〔メタシアターとしての喜劇『サンシャ

イン・ボーイズ』』『フィロカリア』

第40号、大阪大学大学院人文学研

究科芸術学・芸術史講座、2023年3月

〔観劇実習レポート 大槻文蔵三番能・

狂言『無布施経』、復曲能『菅丞

相』』『演劇学論叢』第22号、大阪

大学大学院文学研究科演劇学研究

室、2023年3月

※「ニール・サイモンにおける喜劇の脱都会化―『求婚』プロボ―ザルス』をめぐって」第33回待兼山芸術学会、大阪大学中之島芸術センター、2023年5月6日

※「芹香る 春の門出の さくらかな。―

宙組新トップコンビへの期待』『宝塚イズム47』、青弓社、2023年7月

〔シン・007〕―イルカを愛したスパイ・真風涼帆、その有終の美』『宝塚イズム47』、青弓社、2023年7月

※『The Relationship Between Characters and Place in Barefoot in the Park: Creating a New "Home" for Comedy. The 11th International Asian Theatre Studies Conference, at Shanghai Theatre Academy, Shanghai, China. (Excellent Paper Award), 4 November 2023

岡田登貴（大学院博士後期課程）

〔観劇実習レポート 『硝子の動物園』（令和四年一月一八日・梅田芸術劇場

温彬（大学院博士後期課程）

※「楽以成人と清明象天―荀子楽教思想における二つの側面―」シンポジウム「教化・教養・教育を―芸術の機能を考える―」、民族芸術学会第167回例会、大阪大学豊中キャンパス、2023年2月11日

※「全徳―朱子学の視点から見た朱有敬の演劇教化観―」2023年度日

本演劇学会全国大会、近畿大学東大阪キャンパス、2023年5月8日

京劇の宝塚大劇場公演とその影響―」、日本演劇学会秋の集会、福岡女学院大学、2023年11月12日

※「1920年代宝塚少女歌劇における中国伝統演劇の受容―京劇の宝塚

―歌劇『琵琶記』を中心に―」により翻訳）

〔昨日に向かって撃て！ 令和日本の

『サンシャイン・ボーイズ』加藤

健一事務所公演 vol.107』[ACT]

33号、国際演劇評論家協会（AICT）

日本センター関西支部、2023年1月

〔メタシアターとしての喜劇『サンシャ

イン・ボーイズ』』『フィロカリア』

第40号、大阪大学大学院人文学研

究科芸術学・芸術史講座、2023年3月

〔観劇実習レポート 大槻文蔵三番能・

狂言『無布施経』、復曲能『菅丞

相』』『演劇学論叢』第22号、大阪

大学大学院文学研究科演劇学研究

室、2023年3月

シアター・ドラマシティ)、「演劇学論叢」第22号、pp.288-299、2023年3月

※「下間少進伸之の邸宅と能《頼政》」

第六〇回藝能史研究会大会、龍谷大学大宮キャンパス、2023年6月11日

※「ふたつの「ある人・有人」―下間少進『童舞抄』と『能之留帖』―」

六龍会一二月例会、ウエブ開催、2023年12月29日

※「下間少進『叢伝抄』秋田家本・関西大学本と鴻山文庫本の比較」六龍

会一二月例会、ウエブ開催、2022年12月29日(第22号遺漏分)

井上美佳(大学院博士後期課程)

デルサルト表情システムの日本における

受容―2代目市川左団次と白井規矩郎の受容の軌跡から― 岩国短期大学紀要第51号、2023年3月

基礎教養科目の効果の測定・評価に関する研究―学習成果のデータ収集・分析を含んだPDCAサイクルによる自己点検・評価― 岩国短期大学紀要第51号「子ども未来保育

研究報告」、共著、2023年3月

※保育者養成校教員の専門性を活かしたモデルカリキュラムの開発―教育・保育の5領域を往還する授業展開に着目して― 中四国保育士養成協議会教職員研究費助成報告、共著、2023年4月

柏木純子(大学院博士後期課程)

「日本女性の死はなにを解放するのかわノイマルクト劇場&市原佐都子/Q [Madama Butterfly] A I C T 関西支部 Act 33号、2023年1月

新井静(大学院博士後期課程)

※「唐十郎「特権的肉体」論―「特権的肉体論」の研究受容と再解釈」近現代演劇研究会8月例会、大阪大学中之島芸術センター、2023年8月26日

※「Juro Karas Outdoor Theatre」The 11th International Asian Theatre Studies Conference, at Shanghai Theatre Academy, Shanghai, China, 5 November 2023.

湯書華(大学院博士後期課程)

※「飛鳥井雅有の紀行と蹴鞠―東宮への思いをめぐって」国際研究会集会「紀行」研究の新展開」、オンライン開催、2023年2月22日

※「十三世紀蹴鞠書における「序破急」の形成過程と意味」芸能史研究会例会、オンライン開催、2023年3月10日

※「粵劇『昭君出塞』の脚本・唱腔(歌い方)・音楽について」王昭君研究会、オンライン開催、2023年7月23日

※「元和七年十一月六日漢和百韻「紅竹雪添色」名残折表後半(86〜92句)輪読」和漢聯句研究会、京都大学国語学国文学研究室(ハイブリック下開催)、2023年9月23日

メンデス・ピント・フェリペ(大学院博士後期課程)

※「日本の現代新作能における異文化対話―演劇翻訳と翻案」第11回アジア国際演劇学会、上海戲劇學院、2023年11月5日
「松風」における夢幻能・死・喪」サンパウロ大学出版「日本文化と破

局」、2023年11月10日

芝田純平（大学院博士前期課程）

※「明治初期の上方落語における『落語改良』―見台等の道具や口演方法の変遷考―」藝能史研究会七月例会、ZOOMにてオンライン開催、2023年7月14日

高木帆乃花（大学院博士前期課程）

「心中」「死」から見る人の有り様―4月文楽公演第3部「曾根崎心中」大阪日日新聞」2023年5月2日

朝原広基（大学院博士前期課程）

「能楽の地域性を追求する」『宝生』80号、公益社団法人宝生会、2023年1月1日

※講座「『身近な地域と能楽』歴史と古典で触れる能・狂言」、主催：公益財団法人箕面市マイプル文化財団、箕面市立西南生涯学習センター、2023年1月12日・2月9日・3月9日（全3回）
※講座「霜乃会プラス」進行役、主催：霜乃会、大阪市・北浜RONDO、2023年1月12日・2月9日・

4月13日・6月8日・7月13日・8月10日・9月14日・10月12日・11月9日・12月14日

※講座「能のことは読んでみる会（巻絹）」主催：能楽と郷土を知る会、芦屋能舞台、2023年1月28日

※「復元能《綱》紹介 講話とパネルディスカッション八尾高安地域ゆかりの能《綱》を探る講座」コーディネート、主催：高安ルーツの能実行委員会、八尾市文化会館4F会議室1、2023年2月11日

※日本民家集落博物館「伝統芸能フェス」（主催：大阪府教育庁文化財保護課・大阪府登録文化財所有者の会・上方文化を応援する会）茶道・華道ミニトークナビゲーター、日本民家集落博物館、2023年3月19日

※霜乃会プラス 番外編@尼崎「講話と素浄瑠璃で描かれる『太閤記』」主催：上方文化を応援する会・霜乃会）司会進行、山村能舞台、2023年3月25日

※「春やすみ 子どもとふれる狂言鑑賞&体験」（主催：能楽と郷土を知る会）企画・進行、三田市立フ

ラワータウン市民センター2Fプレイルーム、2023年3月29日

※講座「第34回能のことは読んでみる会《録木》」主催：能楽と郷土を知る会、芦屋市民センター1301号室、2023年4月2日

※霜乃会本公演「霜華咲源平物語」（主催：上方文化を応援する会・霜乃会）企画・制作、国立文楽劇場小ホール、2023年5月6日・7日（全3回公演）

※ITC―J芦屋クラブ45周年記念講演「能楽―紡ぐこと、伝えていくこと」（主催：ITC―J芦屋クラブ）司会、ホテル竹園芦屋、2023年5月24日

※講座「能《長柄》（ながら）を読んでみよう！」
主催：白藍之會、オンライン開催、2023年6月17日

※第4回真花演能会（主催：株式会社真花）上演解説、湊川神社神能殿、2023年7月2日

「発祥の地で演じる特別感―高砂神社奉納能《高砂》」大阪日日新聞」2023年7月4日

※講座「第35回能のことは読んでみる

会《班女》」主催・能楽と郷土を知る会、芦屋能舞台、2023年7月16日

※第44回富松薪能（主催・富松薪能の会）上演解説、富松神社境内、2023年7月26日

※「こうべさんだ能・狂言子ども教室2023」（主催・能楽と郷土を知る会）企画・進行、三田市立フラワータウン市民センター・太宋山欣勝寺、2023年7月27日・8月1日・8月3日・8月8日・8月17日・8月21日・8月22日（全7回）

※「岸和田の能楽師・杉江櫻園について―先進性と地域性―」藝能史研究会8月例会、オンライン開催、2023年8月10日

※講座「信長・秀吉・家康と能楽」主催・白藍之會、オンライン開催、2023年8月26日

※講座「第36回能のこぼを讀んでみる会《蟬丸》」主催・能楽と郷土を知る会、芦屋能舞台、2023年10月21日

※「狂言で見る日本人初のビール醸造物語」（主催・能楽と郷土を知る会、

オフィスカジャ）企画・進行、太宋山欣勝寺、2023年10月28日

妙音無我・班女バンフレット「解説 能

《班女》たゞ思はれぬ身の程を、思ひ続けて独居の、班女が聞ぞ淋しき」（主催・妙音無我）、大濠公園能楽堂、2023年11月3日

※第26回大阪市図書館フェスティバル

阿倍野区能楽講座「能への誘（いざな）い」豊臣秀吉と大阪の能、主催・大阪市阿倍野区役所・大阪市立阿倍野図書館多目的室、2023年11月5日

第22回芦屋能・狂言鑑賞の会（主催・能・

狂言鑑賞の会・芦屋市・芦屋市教育委員会）「演目解説」、ルネサンスクラシックス芦屋ルナ・ホール、2023年11月17日

※第22回芦屋能・狂言鑑賞の会（主催・

能・狂言鑑賞の会・芦屋市・芦屋市教育委員会）スマホde解説、ルネサンスクラシックス芦屋ルナ・ホール、2023年11月17日

※特別授業「狂言」（主催・兵庫県加古川市教育委員会）、加古川市立上

荘小学校、2023年11月30日

藤枝優希（大学院博士前期課程）

「個性派俳優支えた喜劇世界―喜劇『おかしな二人』」「大阪日日新聞」2023年6月6日

□令和四年度の卒業論文、修士論文

〔卒業論文〕

小津安二郎「紀子三部作」における家族「ヘアスプレー」論―映画とミュージカルの比較―

宗行 正一郎

メソッド演技論研究―アドラーとストラバーク―

中川 流英

「雷神不動北山櫻」研究―不動明王との関わりを中心に―

高木 帆乃花

Jホラー映画作品の音響分析とその効果に関する考察―ミシェル・シオンの映画音響論を手掛かりに―

古藤 瑤

「デイズニー・プリンセス映画」におけるヒロイン像の変遷

KIM DOYOUNG

Hip Hop Theater の日米比較

尾崎 美祈

三島由紀夫の歌舞伎観

矢口 奈津実

〔修士論文〕

平田オリザの『ソウル市民』3部作を通じた作劇法研究―空間・不在・言葉・そして無為の演劇について―

崔 英源

長沼重隆の演劇実践と批評活動―1910年代後半を中心にして―

波多野 珠喜

〔お詫び〕

第20号につきまして、卒業論文一覧に誤りがございました。お詫びして訂正いたします。

正誤は次の通りです。

(誤) p.117

初期寺山修司の戯曲及びシナリオにおける女性像

神田 七海

野田秀樹『THE BEE』論

工藤 舞弥

如月小春『DOLL』(1983)の少女性

廣嶋 萌衣

(正)

松島慶三の劇作品研究性像

遠藤 敦子

アメリカにおけるプレヒト叙事的演劇の受容について―『母』ニューヨーク公演(1935)を中心にして―

佐藤 勇輝

「演劇センター」(1968―1971)による演劇の革命

山内 日菜子